

報道関係者各位(研究情報)

2016年(平成28年)6月13日

認知症予防も期待できる「記憶力」に關与する香り成分を発見

株式会社ファンケルは2014年6月より、新たな製品を創造するイノベーション研究の一環として、「記憶力」に關わる脳機能について研究をしています。このたび、香りの成分と「記憶力」についての研究を行った結果、新たにテルピネオールという香り成分に、「記憶力」に關わる脳の働きを高める効果があることを発見しましたので、お知らせいたします。

<研究背景・目的>

認知症は、その予備軍も含めて2025年には、65歳以上の3人に1人が該当すると予測されており、高齢化社会の現代において大きな社会問題となっています。認知症の中核症状の1つに、著しい「記憶力」の低下があります。その予防には、日常的に脳を活性化することが重要であると言われています。

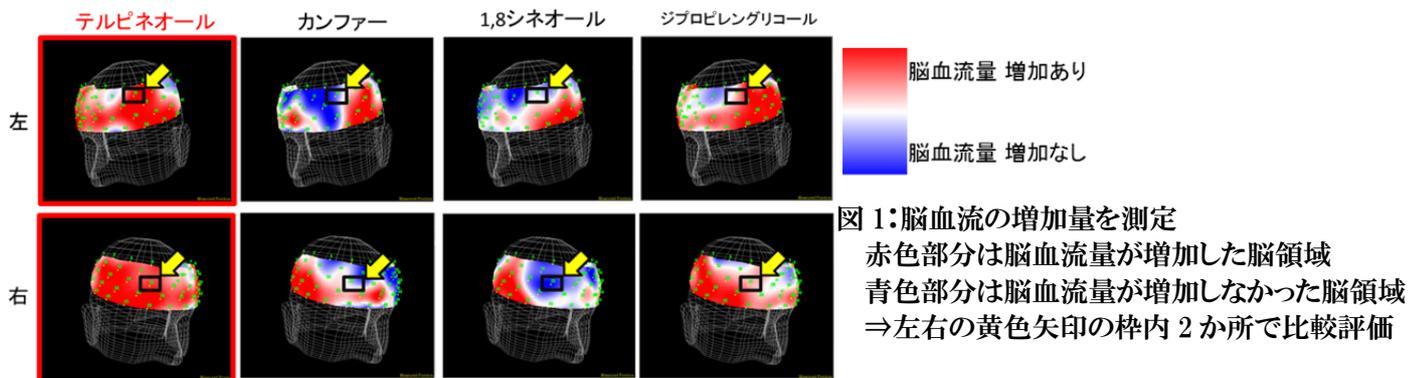
一方、「記憶力」は香りと密接な関係性があるという多数の研究報告がありますが、未だに不明な点が多いのが現状です。研究の多くは、精油など複数の香り成分に関するもので、単一の香り成分に関する研究は少なく、特に作動記憶^{*1}に関するものは知られていません。

そこで、当社では「記憶力」の中でも、特に日常生活において重要な機能である作動記憶に着目し、作動記憶に關わる脳の領域における単一の香り成分の効果について研究を行いました。

<研究結果>

研究には記憶力の向上が期待されるテルピネオール、カンファー、1,8シネオールと、無臭のジプロピレングリコールの4成分を使用しました。被験者が各種の香りを吸入しながら、作動記憶を必要とするパソコン作業をし、その間の脳の活動について、光トポグラフィ装置^{*2}を用いて脳内の血流量変化を測定しました。

その結果、テルピネオールの吸入時には、作動記憶に關連する左右2か所の脳領域において、他の成分と比較して、著しい脳血流量の増加が確認されました(図1/次ページ 図2、図3)。



※1 作動記憶: 行動する際に必要となるルールや前行動などを覚える「記憶力」

※2 光トポグラフィ装置: 脳活動に伴う大脳皮質の血中ヘモグロビン濃度変化を計測する装置

図 2: 脳の右前方部分における脳血流の増加量

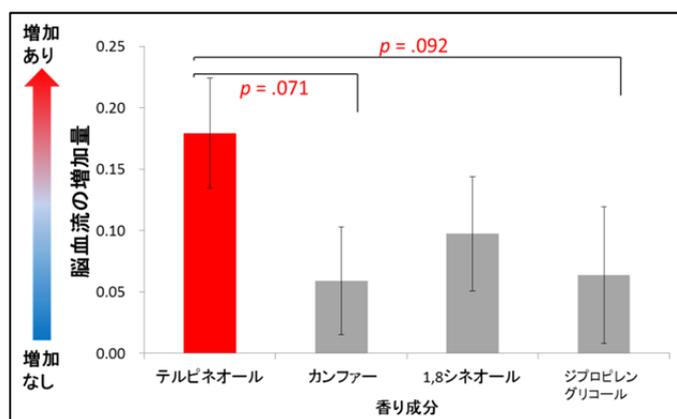
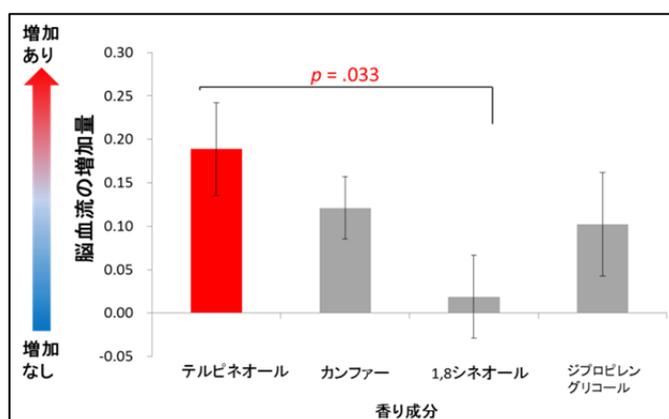


図 3: 脳の左前方部分における脳血流の増加量



これらの結果は、テルピネオールに作動記憶能力の機能を高める可能性があることを示唆するものであり、将来的に認知症予防の貢献に繋がると考えています。

なお、本研究は味と匂学会の国際学会「17th International Symposium on Olfaction and Taste」(2016年6月6日/於:横浜)で発表をしました。来場者からは、興味深く将来性のある研究内容である旨のコメントが得られました。

<今後の課題>

本研究の結果より、テルピネオールを吸入することで、嗅覚を介して作動記憶能力の改善や認知症予防に繋がる可能性が示唆されました。当社では、今後も香りと「記憶力」に止まることなく、ヒトの五感という視点から脳を介した様々な機能の解明を目指します。さらに、お客様の心身の負の解消、そしてその先にある個々の日常生活に、前向きで明るくアクティブな活動と生活を提供できるような研究を進めてまいります。



本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先
 株式会社ファンケル 社長室 広報グループ
 TEL:045-226-1230 FAX:045-226-1202